



写真／米国立公文書館原蔵

食べ物にも着る物にも
不自由したけど
皆で工夫しながら
暮らしていたよ



都立武蔵野中央公園

今は何でも自由に
手に入るけど
それだけで平和って
いえるのかな？

特集 1

戦後75年 まちと人、その過去と今



今年、令和2(2020)年は、第二次世界大戦が終結してからちょうど75年。

まちも、人々のライフスタイルも大きく変わりました。

しかし、決して忘れてはならないまちの記憶があります。

過去と今を比較しながら、平和について考えてみませんか？

私たちの武蔵野市は、戦争末期の昭和19(1944)年11月24日、初めて米軍による空襲を受けました。今の緑町一帯にあった日本屈指の航空機エンジン製造工場・中島飛行機武蔵製作所が標的の一つにされたのです。これ以降、終戦までに9回もの空襲を受け、工場で働く人や周辺住民に多くの犠牲者を出しました。

まちには今も戦争の記憶が残り、戦争体験者から当時の話を聞くこともできますが、75年もの歳月がたつと、その手がかりが少なくなりつつあるのも、また事実です。昭和から令和へ、まちも、そこに生きる人々の生活も大きく変わりましたが、決して忘れてはならない記憶があります。まちの過去や歴史に思いをはせながら、そこに生きた人々への想像力を働かせ、今のこの平和がどのようにして築かれたのかを感じたいものです。

何が、どれだけ、今とちがう？

戦時中と現在の中高生の生活を徹底比較！

戦時中

とにかく
食べ物が入らなくて
いつもおなかを
すかせていた
サツマイモのツルまで
食べていたよ



今

今は好きなものを
好きなだけ食べられるけど
ムダにしないように
注意したいよね



1 どんなものを食べていたの？

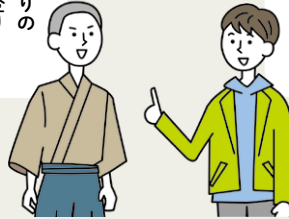
戦時中、お米は貴重品。決められた分だけしか買えない「配給制」となり、次第に白いお米になる前の玄米しか手に入らなくなります。そこで、白米の代用として小麦粉をだんご状にした「すいとん」でおなかを満たしていました。また、庭の一部を使ってサツマイモやカボチャなどを自家栽培する家庭も増加。しかし、本格的に食糧難になったのは終戦直後だったとの証言もあります。

2 何をして遊んでいたの？

昭和 16 (1941) 年の金属類回収令で家庭の金属製おもちゃが回収され、武器などに再利用されていました。その後、アルミ製おもちゃの製造も禁止され、材料は木や竹、紙などに限られていましたが、子どもたちは身の周りにあるもので工夫して遊んでいました。

戦時中

男子は手作りの
メンコや木登り
女子はゴム縄跳びや
ビー玉遊び
皆で工夫して
遊んでいたよ



今

今は電子ゲームが
人気だから
機械や電気に頼った
遊びが多いかな

戦時中

女子学生は
制服の下にもんぺ
男子学生はカーキ色の
国民服が定番
着る物も制限されて
おしゃれなんて
できなかつたわ



今

制服や私服も
選択肢が多くて
自由におしゃれが
楽しめる今の時代に
感謝したいな



3 どんな服装をしていたの？

戦時中は自由な格好は許されず、男子学生の多くは国が定めた国民服を着て、足にはゲートル(布で足を保護するもの)を巻き、女子学生はセーラー服の下に農作業にも使うもんぺをはくことが多かったようです。学徒勤労動員で労働をしたり、防空壕ごうにいつでも避難できるように、服装は動きやすさを重視。避難の際、防空頭巾は男女とも必須でした。

戦時中と令和の今とでは、衣食住、どこを取っても大きく様変わりしていることが分かります。

しかし、当時の暮らしに関する資料は少なく、確認も難しいのが現状です。

身近に戦争体験者がいる方は、ぜひ当時のことを直接聞いてみましょう。

農村から 軍需のまちへと 変貌した武蔵野

武蔵野村が武蔵野町となり、発展する中で誕生したのが軍需工場でした。空襲の標的にもされた歴史を振り返りながら、移り変わってきたまちの足跡をたどってみましょう。

軍需産業都市へ

武蔵野市は、明治期には武蔵野村とよばれ、人口の9割以上が農業を営む農村でした。その後、大正12(1923)年に起こった関東大震災によって被災者などが転入し始め、郊外住宅地としての整備が進んだことで人口が増加。昭和3(1928)年、町制を施行し、武蔵野町になりました。

武蔵野町として発展する一方で農家は減少し、代わりに当時の日本の戦時体制にともなう軍需工業地帯へと移り変わっていきます。中島飛行機東京製作所(杉並区)や、陸軍の所沢飛行場から近いことがその理由とされていますが、昭和13(1938)年、現在の緑町一帯に中島飛行機株式会社武蔵野製作所(後に武蔵製作所)やその下請け工場が建設され始めました。これを機に人口や通勤客も急増し、三鷹駅武蔵野口(北口)も開設。軍需産業都市へ変貌を遂げるようになります。

昭和19(1944)年11月7日、最初の空襲直前に米軍が撮影した中島飛行機武蔵製作所。(米国立公文書館原蔵)

年	武蔵野町(当時)の動き	国内外の動き
1937		7月 盧溝橋事件から日中戦争へ
1938	4月 陸軍の要請で中島飛行機武蔵野製作所を開設	4月 国家総動員法施行
1939		9月 ドイツがポーランド侵攻 第二次世界大戦勃発
1941	1月 三鷹駅武蔵野口(北口)開設 11月 海軍の要請で中島飛行機多摩製作所を開設	12月 真珠湾攻撃、太平洋戦争へ
1942		4月 B25による東京初空襲
1943	10月 武蔵野製作所と多摩製作所が合併、武蔵製作所に	10月 学徒出陣
1944	4月 学徒勤労動員開始 11月24日 武蔵野町へ初の空襲 12月3日 第2回空襲 12月27日 第3回空襲	7月 サイパン島陥落 8月 テニアン島陥落
1945	1月9日 第4回空襲 2月17日 第5回空襲 4月1日 中島飛行機が事実上の国営化 4月2日 第6回空襲 4月7日 第7回空襲 4月12日 第8回空襲 8月8日 第9回空襲	2月 ヤルタ会談 3月 東京大空襲 5月 ドイツ降伏 6月 沖縄戦終結 8月6日 広島に原爆投下 8月9日 長崎に原爆投下 8月15日 終戦(ポツダム宣言受諾)

武蔵野のまちの発展と戦争の歴史はつながっているんだね



あの日の空を忘れない

武蔵野市の空襲の記録と記憶

陸軍専用の中島飛行機武蔵製作所と海軍専用の多摩製作所が昭和18（1943）年に合併され、当時国内最大とうたわれた航空機エンジンの一大工場「中島飛行機武蔵製作所」が誕生します。日本の軍需を支える一方で、米軍による空襲の標的にもなったのです。

周辺住民を巻き込んだ空襲

中島飛行機武蔵製作所は、昭和19（1944）年の最盛期には従業員や職工、全国からの徴用工員、男女学徒動員を合わせた4万5千人が交代で24時間工場を稼働させ、日本の軍需産業を支える中心となっていました。

この年に始まった米空軍による爆撃で攻撃目標の一つとなったのが、この武蔵製作所でした。米軍にとって、航空機のエンジン製造の拠点を攻撃すれば日本の戦闘能力を弱められるとの狙いがあったのです。そして、同年11月24日の昼過ぎ、高度1万メートル上空を飛ぶ米軍の大型戦略爆撃機B-29から、次々と爆弾が投下されました。武蔵製作所を目標とした爆撃でしたが、結果的に周辺の一般住民をも巻き込み



爆撃後の中島飛行機武蔵製作所東工場。
(米国国立公文書館原蔵)

大きな被害をもたらすことになりました。

地域の戦争の歴史を どう語り継ぐのか

昭和20（1945）年に入ると、低空飛行による爆撃と機銃掃射が激化。終戦を迎える同年8月まで、武蔵製作所を中心とした一帯への爆撃は計9回も続きました。武蔵製作所は壊滅し、判明しているだけでも工場での死者220人、負傷者266人にのぼる犠牲者を出します。その一方で、周辺住民の死傷者の詳細については不明な点も多く、正確な数字は分かっています。戦後に入り、武蔵製作所への空襲について、米軍と日本軍、工場関係者の記録、武蔵野町民の記憶などから、新たな事実も分かっています。



【都立武蔵野中央公園】爆撃により多くの命が失われた空間は、市民の笑顔があふれる公園となった。

しかし、中には当時のことを語りたくないという人もいますし、公的な「記録」と人々の「記憶」に違いがあるケースもあります。私たちは、残された記録や記憶とどう向き合い、地域における戦争の歴史を正しく語り継いでいくべきか、課題は少なくありません。

戦争の歴史を
正しく知った上で
平和のありがたさを
感じてほしいな



昭和20（1945）年8月8日、武蔵野市上空から爆撃するB-29の様子。(米国国立公文書館原蔵)

身近にあった戦争の歴史を学びながら、 心の平和についても考えてほしい

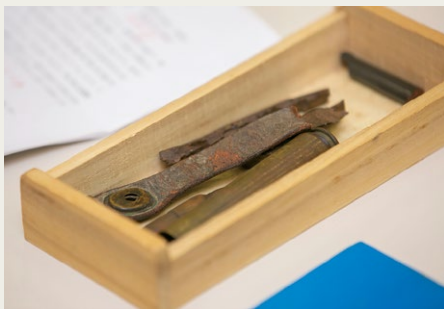
戦時中、武蔵野に大きな被害をもたらした空襲とは、どのようなものだったのでしょうか。

米軍の攻撃目標となった中島飛行機武蔵製作所近くの延命寺で

戦争の始まりから終わりまで一部始終を見つめてきた現住職の中里崇亮さんに、

忘れがたい戦時中の体験と今日の平和のあり方について、

武蔵野市非核都市宣言平和事業実行委員の大学生2人がお聞きします。



昭和20年3月に撃墜され、西荻窪に墜落したB-29から拾得した大型ピストルの皮ケース(左側奥)と、武蔵野女子学院(現在の武蔵野大学)で拾得した薬莖(右側手前)。

空襲を体験されたのは、
中里さんが何歳のときだった
のですか？

国民学校に通う2年生から3年生の時です。7歳から8歳にかけてです。私が生まれ育った家は八幡町1丁目にある延命寺で、家の北側200メートルの場所に中島飛行機武蔵製作所がありました。昭和13(1938)年、まだ武蔵野市が武蔵野町と呼ばれていたころ、麦畑の真ん中に鉄筋コンクリートの中島飛行機武蔵製作所が建ち始めたんです。

武蔵製作所は軍用機のエンジンを製造していたので、昭和19(1944)年になると、米軍の攻撃目標になりました。



中里崇亮さん

昭和11(1936)年生まれ。延命寺住職。武蔵野市非核都市宣言平和事業実行委員会委員長。武蔵野史談会、玉川上水を守り育てる武蔵野市民の会などの会長も務める。昭和52(1977)年、延命寺境内に戦没者の慰霊と世界平和を祈念し、檀家(だんか)らの浄財により平和観音像を建立。戦争遺物の収集保存にも力を入れ、戦争体験を語り継いでいる。

す。そのすぐそばに住んでいたわけですから、かなり怖い思いをしましたよ。空襲は延べ9回続きました。子どもの頃に味わった恐ろしさ、悲しさは、84歳になった今でも決して薄れることはありませんね。

空襲に遭われたとき、
中里さんや周りの方は
どのような様子だったの
でしょうか？

初めて空襲があったのは昭和19年11月24日。現在、この日は武蔵野市の「平和の日」になっていますね。この日はお昼すぎに警戒警報が鳴って、すぐに空襲警報が鳴りました。私は姉を含め5、6人で集団下校していたのですが、仲通りを歩いているときB-29の空襲に遭いました。聞いたこともない地響きとともに、武蔵製作所の西側から煙が上るのを目撃して、びっくり

して右往左往していたのですが、近所のおばさんから「早くこっちにおいで」と促されて、農家の生け垣に潜り込んでやり過ごしたんです。

2回目の空襲では、武蔵野女子学院（現在の武蔵野大学）のそばにも爆弾が落ちて、武蔵野町で初めて一般市民から犠牲者が出ました。それ以降、空襲は日常的に起こるようになります。大きな家では、一家全滅を避けるために防空壕を2つ作って別れて避難しているところもありました。

ある家では、幼い兄弟2人が防空壕に入って模型飛行機を作っていたところ、材料が足りなくなると、兄の方が家に取りに行ったときに爆弾に当たってしまい、亡くなったそうです。弟さんは無事だったのですが、あるとき新聞記者に当時の話を聞かせてほしいと頼まれたところ、「思い出すのが嫌なので」と断ったといいます。自分だけ

が助かったことに対して申し訳ないという悲痛な気持ちもあったのだろうと思いますね。

中里さんからご覧になって、今の世の中は平和といえるのでしょうか？

今は食べ物も豊富にあって、何も不自由がありません。戦時中は自分の言いたいことすら自由に言えませんでしたが、本音ではつらくて悲しいと思っていても、建前としては自らを奮い立たせるようなことを言っていたわけですが、戦中、戦後のことを考えれば確かに今は平和といえますが、自由に何でもできるから平和なのかというと、どうでしょうか。やはり人の心そのものが平和、平穏でなければ、本当の平和とはいえないと思いますね。

私の父は、昭和20年の初めには「日本はもうだめだ。日本が負けたら食糧難になる」と言って、畑で野菜作りを始めました。子どもが9人いましたが、そのおかげで何とか食糧を分けてあげることができたんです。食べ物を自給することの大切さをそのとき学んだのですが、今の人たちは自然や生き物に触れることなく、消費だけをして生

産をしなくなっています。植物や生き物などの命を育てた体験がなければ命の大切さも分らない。体験を通して人が生きていく上での基本を知ること、これが心の平和につながると思います。

若い世代が平和を維持していくためには何が必要だと思いますか？

やはり、歴史に学ぶことが大切です。身近に戦争体験者がいらっしやるなら、当時どんなことがあったのか、今のうちにお聞きになるといいと思いますよ。その上で、正しい人のあり方を考えながら、平和を維持する方法を探っていく努力が必要です。ただ放っておいて、今の平和が維持できるわけではない。私はそう思います。

世界情勢を見ても、今も宗教や人種の違い、資源などをめぐって争いが生まれている中、どうしても平和が実現できるのか、私はいつもそのことを考えています。そのためには、まず家族が、地域が平和でなければ始まりませんね。

私の家はお寺ということもあって、爆弾の破片など、さまざまな戦争遺物がたくさん集まっています。それらを保管しているので、戦争体験の話をす

る際には必ずどれか持っていくようにしているんです。やはり言葉だけではなかなか伝わらないので、証拠ではないけれど、実物を見て、触れることで当時の様子を想像してもらおうのが一番いい。いずれ代が替わった時に、悪い記憶として処分されてしまうことのないように、こうした遺物をこれから市民がどう活用していくのかが大事ではないでしょうか。戦争体験者が高齢化している今、戦争の遺物などを教材として活用する教育というものも必要だろうと思いますね。



佐藤礼菜さん

大学2年生。幼いころ、祖母の戦争体験を聞いて興味を持ち、中学生のとき三多摩の子供平和派遣団に参加し広島で原爆について学ぶ。その後、武蔵野市青少年平和交流派遣団として長崎も訪問した。現在は非核都市宣言平和事業実行委員として、武蔵野市の平和事業に参加。



中田くるみさん

大学2年生。高校生のとき、授業で歴史として戦争について学び、「実際はどうだったのか」に興味を持つ。非核都市宣言平和事業実行委員として、武蔵野市の平和事業の一環で行われた展示に参加し、冊子の配布などをサポートした。

平和のためにできること

市では、昭和35年に「世界連邦に関する宣言」を、昭和57年に「武蔵野市非核都市宣言」を行い、市民と市民団体による非核都市宣言平和事業実行委員会と協力して平和事業を行っています。

「平和の日」とは？

第二次世界大戦中、現在の都立武蔵野中央公園周辺には、航空機エンジン工場である中島飛行機武蔵製作所があり、ゼロ戦などのエンジンが作られていました。この工場を標的として、武蔵野市は米軍のB-29爆撃機によって昭和19年11月24日から計9回もの空襲があり、工場の従業員をはじめ、周辺住民など多くの方が犠牲となりました。このような歴史から、市では最初に攻撃を受けた11月24日を「武蔵野市平和の日」として制定しました。



平和の日イベント 講演会



平和の日イベント パネル展

非核都市宣言平和事業実行委員会

市では、平和団体や市民団体の代表、大学生、公募市民で構成される非核都市宣言平和事業実行委員会を設置し、共催で夏季平和事業や平和の日イベントを実施しています。



夏季平和事業 おしばい
『ぞうれっしゃがやってきた』



平和の日イベント 戦時中の食体験

戦争体験者の生の声

戦争体験者の生の音声や映像を通して、戦争の悲惨さや平和の大切さを若い世代の方たちにもより分かりやすく継承していただけるよう、平和啓発ビデオを作成しています。



武蔵野の戦争体験
を語り継ぐ
~平和を願って~



戦争体験を語り継ぐ
~被爆体験者、シベ
リア抑留者の声~



青少年平和交流派遣団

若い世代に戦争の悲惨さ、平和の尊さを学び考えてもらうことを目的に、市内在住・在学の中学生・高校生を「武蔵野市青少年平和交流派遣団」として、原爆が投下された長崎市へ派遣しています。



事前学習会



一本柱鳥居(長崎市)の
説明を聞く子どもたち

平和・憲法手帳

市がこれまで取り組んできたさまざまな平和施策や武蔵野の空襲の歴史を知り、また、日本国憲法や人権の大切さを再認識するために作成し、配布しています。



平和・憲法手帳